

## 33 業界の現状 / 城塚 浩 会員



- ①最近試験に合格しても、就職できない者が多数出現。
- 経緯： ・平成12年以後 監査の業務が大きく変わり増加した。  
(4半期報告の業務、内部統制の整備状況のチェック 他)  
・平成15年公認会計士法改正において、試験制度改革が行われた。  
・従来700~800名であった合格者の大幅増加。(H18年/1,372名、H19年/2,695名、  
H20年/3,024名、H21年/1,916名、H22年/1,923名)  
・対策として、企業の会計実務充実の為の会計専門家の活用を目指して、「企業財務会計士」の制度を目指したが、今国会で廃案となつて。
- ②IFRS国際財務報告基準
- ・世界共通のモノサシ ← 企業活動のグローバル化 ・投資判断の効率化
  - ・特徴 -原則主義- 各国の法律の違いのため、法制度を前提としないルールを作らない

## 34 箸のお話 / 小島 達也 会員



箸の伝来についてははっきりしていませんが、神話の中に出てきて、「八岐大蛇」の退治に使われたようです。この時代の箸は、青竹をピンセットのようにした物で、奈良時代から平安時代の初期まで使われました。

箸は非常に便利な道具で、それ一つあれば食物を口に運ぶために必要なほとんどの機能を果たすことが出来ます。同じく箸を使う中国や、朝鮮半島では、匙が併用されています。純粋な箸食の国は日本だけだと思います。

—箸と日本酒は民族の祈りの両輪—

日本酒は神事には「御神酒」として神と人をつなぎ、厄事の際は、お浄めとして魔除けの霊力を発揮すると信じられてきました。米を尊ぶ文化の伝統が息づいています。米を食べる箸、そして米から醸す酒。両者は、いわば民族の祈りの両輪だったということが出来ます。

## 35 寺に生まれ僧侶になって / 川村 一紀 会員



私は「西福寺」という寺の長男として生まれました。最初は「寺」という所、寺の息子に生まれた事が非常に嫌でした。小学生の頃には、「一紀(いっき)は坊主の息子」と言われ、これがしゃくにさわって、ケンカをしたりしながら成長しました。高校を卒業し、大学へと進むのですが、寺というものが非常に嫌だったので、寺とは関係ない大学へと密かに考え、受験したのですが、落ちてしまいました。そのことばれて、親族会議を開かれ、東京の大正大学へ、寮へと入れ込まれました。

当時の寮は非常に怖い寮でしたが、そこで秋田出身の人と同じ部屋になりました。彼は非常に真面目な人間でした。なぜこの大学に来たのか聞いてみると、「父親が戦争で亡くなり、自分が継がなくてはならないから来た。小さく金銭的に厳しい寺だったので、檀家さんが学費を出してくれて入学できた。」という話を聞いて、ショックを受け、「この人間に申し訳ない」と感じ、授業にも出るようになり、卒業する事が出来ました。

皆様、あちこち色々あるかもしれませんが、しっかりと帰る家(人生の最後帰る場所)を決めて頂ければ、生きていくうちは安心しでき、己の命を大事に生きるという事につながると思います。

### 委員会報告

- 親睦委員会 (井尻委員長)
- 6/27最終例会の出欠について (現在 : 34名)

### 出席報告..... 宮崎副委員長

	月/日	総会員数	出席者 合計	会員欠席	出席率	メイク アップ	確定 出席率
前々回	5/30	44名	31名	9名	—	(1名)	80.0%
前回	6/6	44名	31名	8名	80.0%	(名)	—
本日	6/13	44名	31名	7名	82.0%	(名)	—